

大容量グローバルネットワーク利用超高精細コンテンツ分散流通技術の研究開発（三菱電機株式会社）平成16年度中間評価結果

項目	評価	所見	再評価	再所見
総合所見	A	<p>研究目標として掲げられている各要素技術の研究開発成果は概ね評価できる。また、研究体制についても、国内美術専門家の参画を得ている他、C2RMF等海外の美術アーカイブプロジェクトとも連携しており、非常にユニークな研究体制となっていることも評価出来る。今後は、各要素技術を統合した場合の連携とコンテンツの特徴を最大限に引き出すという観点から各技術を評価しつつシステム開発を進めることが望まれる。一方、プロジェクト成功の鍵となるコンテンツのデジタル化とその普及のためには、できるだけ多くのコンテンツ作成とデファクト化が非常に重要であり、このことを強く意識した取り組みが、なお一層必要と判断される。</p> <p>三菱電機株式会社とセラータムテクノロジーが、それぞれの技術及び事業上の強みを活かした連携により、今後市場の拡大が見込まれるコンテンツ事業へ参画するという事業化戦略であり、今後の市場の成長と両社の連携体制の整備により一定の収益が期待される。</p>		